

# Mémoires 2018

## 桜花賞



第78回桜花賞(GI) 優勝馬 アーモンドアイ

## 新女王誕生

この年、史上5頭目の牝馬三冠制覇を達成し、その後のジャパンカップも制して年度代表馬に選ばれることになるアーモンドアイ。同馬のキャリアにおける最初のGI勝ちが、この桜花賞だった。

デビュー戦2着の後、未勝利戦を楽勝して迎えたシンザン記念では、重賞で好走してきた牡馬を含むメンバー相手に豪快な差し切り勝ち。他馬が止まって見えるほどの末脚は絶大なインパクトを残したものの、桜花賞は2番人気にとどまった。シンザン記念から3か月ぶりというローテーションや、スタートに課題を残す点が懸念されたこともあったが、何より大きいのは、ラッキーライラックの存在だった。

危なげのない優等生的な走りでも4戦無敗。2歳女王にしてトライアルのチューリップ賞も完勝と、めばしいライバルとは勝負付けの済んでいるラッキーライラックに死角は見当たらず、単勝1.8倍という断然の1番人気は、ある意味で当然の支持だった。

そのラッキーライラックは、抜群のスタートから3番手で折り合い、直線で外へ持ち出されると徐々に加速。残り200mで先頭に立ち、後続を突き放しにかかる。チューリップ賞と同じ勝ちパターンでのレース運びだったが、しかしアーモンドアイの能力は、そのはるか上をいっていた。

スタートがいまひとつで後方2、3番手から進んだアーモンドアイは、4コーナーを回った時点でもまだ先頭から10馬身近く離れた位置。しかしそこから凄かった。大外から猛然と追い上げ、あっという間に他の馬たちを抜き去っていく。残り100mで早くもラッキーライラックを捉え、最後は1馬身 $\frac{3}{4}$ の差をつけてゴール。上がり3 $\frac{1}{2}$ 33秒2(推定)はメンバー中最速で、勝ちタイムの1分33秒1は、厩舎の先輩で2010年牝馬三冠に輝いたアパパネのタイムを上回るレース記録だった。

クリストフ・ルメール騎手も「アンビリーバブル」と感服したパフォーマンスで獲得した初タイトル。2018年のアーモンドアイの快進撃は、まさにここから始まった。



▲4コーナー、後方のアーモンドアイ(帽色・橙・右)は外に進路を取る。

▶驚異の末脚で他馬を圧倒し、ロードカナロア産駒初のGI馬となったアーモンドアイ。



### 第78回桜花賞(GI)

4/8 阪神競馬場 1600m(芝・右・外) 晴・良 17頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	アーモンドアイ	牝	3	55	C.ルメール	国枝 栄	1:33.1	①	⑫⑩
2	ラッキーライラック	牝	3	55	石橋 脩	松永 幹夫	1 3/4	②	③③
3	リリーノブル	牝	3	55	川田 将雅	藤岡 健一	1/2	③	⑥⑥
4	トーセンプレス	牝	3	55	柴田 善臣	加藤 征弘	1 3/4	④	⑬⑬
5	マウレア	牝	3	55	武 豊	手塚 貴久	ハナ	④	⑫⑨
6	リバティハイツ	牝	3	55	北村 友一	高野 友和	ハナ	⑤	⑥⑥
7	レッドサクヤ	牝	3	55	松山 弘平	藤原 英昭	ハナ	⑥	⑤③
8	スカーレットカラー	牝	3	55	岩田 康誠	高橋 亮	クビ	⑦	⑩⑨
9	ツツミモン	牝	3	55	秋山真一郎	藤岡 健一	ハナ	⑧	⑫⑫
10	プリモシーソ	牝	3	55	戸崎 圭太	木村 哲也	1 1/4	⑨	⑤⑬⑬
11	アンコールブリュ	牝	3	55	藤岡 圭太	友道 康夫	2	⑩	⑩⑨
12	フィニフティ	牝	3	55	福永 祐一	藤原 英昭	1 1/2	⑪	⑭⑬
13	デルニエオール	牝	3	55	池添 謙一	池江 泰寿	クビ	⑫	⑬⑬
14	ハーレムライン	牝	3	55	大野 拓弥	田中 清隆	クビ	⑬	⑥⑥
15	レッドレグナント	牝	3	55	M.デムーロ	大竹 正博	1/2	⑭	⑨⑨
16	コーディエライト	牝	3	55	和田 竜二	佐々木晶三	2 1/2	⑮	⑪⑪
17	アンヴァル	牝	3	55	藤岡 佑介	藤岡 健一	3/4	⑯	③③
—	アマルフィコースト	牝	3	55	浜中 俊	牧田 和弥	出走取消	—	—

単勝 ⑬390円 複勝 ⑬140円 ⑩110円 ⑨140円 枠連(1-7)380円  
馬連①-⑬480円 馬単⑬-⑩990円 ワイド①-⑬230円 ⑨-⑬430円 ①-⑨230円  
3連複①-⑨-⑬830円 3連単⑬-①-⑨3,780円

ハロンタイム 12.3-10.7-11.5-12.1-12.1-11.5-11.3-11.6  
通過タイム 600m ⑬34.5-800m ⑬46.6-1000m ⑬58.7-1200m ⑬1:10.2-1400m ⑬1:21.5

### 優勝馬 アーモンドアイ

2015.3.10生 父ロードカナロア 母フサイチパンドラ 母の父サンデーサイレンス  
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)シルクレーシング